



得意技は、
隙のない「平面」
品質・提案力

株式会社榎本金属製作所

時代が求める高精度な加工

家電、設備、車……。製品の小型化によって、加工の精度はますます求められている。この精度を高めながら低コストなプレス加工を実現しているのが榎本金属製作所だ。特に高く評価されているのが「絞り加工」の技。反りやひずみのない美しい平面を保ちながら、金属板を様々な形状の部品に仕上げていく技術力が、大手厨房メーカーや液晶・自動車部品メーカーに選ばれている理由だ。「プレス加工が人件費の安い中国に流れている今、私たちが勝負できるのはやはり品質と技術開発。いいものをいかに最少コストで作るかを追求し続けています」と榎本仁社長。決して品質を落とすことなく、製造

工程を可能な限り自動化することで、取引先の難しいニーズにも応えている。例えば、同社が主力で製造しているガスコンロの部品。高級感あるガラストップ製品等には、平面性の高い金属プレートが不可欠となるが、あるメーカーからは「ステンレスとSPCCを同じ金型で平面を確保しつつ



作ってほしい」といった要求や、他メーカーからは「順送加工の後工程の修正押しを平面を確保しつつ無くしたい」といった要求も無い込む。同社はそれらの修正技術を苦労を重ね編み出し、自動処理工程に組み入れることで、コスト面でも有意性を発揮。最近導入した7工程サーボプレス・ロボットラインや、順送との組み合わせが可能なトランスファープレスは、それらを高性能に自動化したという点で同業他社にもあまり例がなく、「2次加工がいるような手間のかかる部品が、安価に、材料ロスを少なく生産できる」と榎本社長は語る。

取引先を喜ばせる提案力も強い

取引先や金型メーカーとの念入りな打ち合わせも、高品質を支える要だ。不良品を抑えるには、金型製作に入る前に、図面から製品にしていく上での不具合箇所の洗い出し、工程検討が何より重要との観点からときには関係者と激しく議論し合うこともある。だがそのかいあって、返品率は1・2PPM(1PPM≒100万分の1個)と業界でもかなり低い数値を達成。部品点数や溶接を減らす加工提案等も積極的に行うことで、取引先に喜ばれている。「多部品で作っていたものを1部品にまとめるといったのは、コスト的なメリットは出るものの、不良品リスクや技術的な難しさがつきまとう。でも挑戦したいんです」と榎本社長は語る。今後は、自動車部品の製造にも力を入れていく予定だ。これまで培った

平面性への技術は、厳しい安全性が求められる自動車分野にはなくてはならないもの。すでにシートブラケット等に同社製品が使われている。「高い品質を支えてくれているのは、当社の社員たち。彼らの能力の向上が、いい提案、いい製品に結びつくと考えています」と社員教育にも余念がない。

主な事業内容

プレス加工、金型製作、溶接、金、部品組立、鍍金、塗装、ホーロー、脱脂等、金属板加工を主体とした関連諸業務等



榎本 仁さん
代表取締役



榎本 秀樹さん
営業部

株式会社榎本金属製作所

Company Profile

住所 / 〒581-0053
大阪府八尾市竹濑東1-304
創業 / 昭和33年1月
設立 / 昭和34年11月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 35名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6708-2566
FAX / 06-6707-6860

大阪
20

<http://www.enomoto-k.com/>